

## 資 料

### ATACカンファレンス2005 ポスターセッション

これは、平成17年12月に京都で行われたATACカンファレンス2005のポスターセッションで報告したものです。

# Webを利用した盲・聾・養護学校からの情報提供における現状と課題(1) -Webサイトのコンテンツの現状に関する調査報告-

○渡邊 章・小野龍智・中村 均 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所)

## 目 的

障害のある子どもへの支援を充実させていく上で、教育関係機関のWebサイトからの情報提供は、重要な役割を果たすようになってきている。本研究では、全国の盲・聾・養護学校のWebサイトによる情報提供の現状と課題について検討することを目的とした。

## 方 法

**調査対象** 全国の盲・聾・養護学校998機関  
**調査実施時期** 平成16年9月～10月  
**実施手続き** 調査依頼と調査票を各学校に郵送し、回答は当研究所Webサイトの回答用ページにアクセスし、そのページから質問項目に回答する方式をとった。  
**回収率** 63.8% (637/998)であった。

## 結果及び考察

### 学校の障害種別

・回答校の障害種別は、図1に示す通りであった。

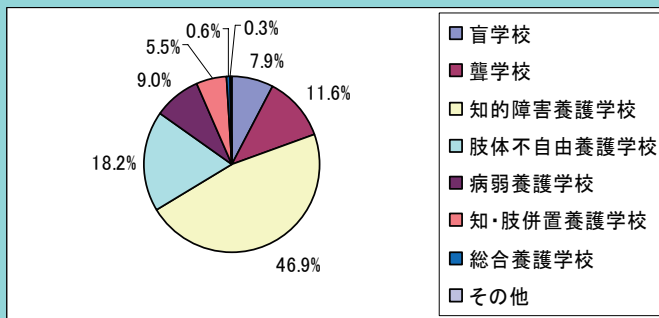


図1 回答校の障害種別

### Webサイトからの情報提供内容

・図2は、盲・聾・養護学校のWebサイトからの、現在の情報提供及び今後の情報提供予定についての回答を示す。  
 ・現在提供している情報で最も多かったのは、「学校紹介」、次に「電話番号」、次に「所在地情報」であった。  
 ・今後の充実予定で最も多かったのは、「教育実践」、次に「教育相談情報」、次に「地域の支援サービス提供機関情報」となっていた。  
 ・このように、学校での教育実践についての情報を充実させようとしているところが多いことがわかる。また、盲・聾・養護学校における地域のセンター的機能を果たすための情報の充実を予定しているところも多いと考えられる。

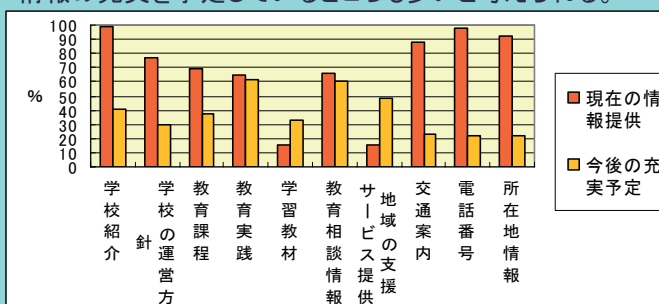


図2 盲・聾・養護学校の情報提供内容及び充実予定

### Webサイトによる情報提供における工夫点

・図3は、Webサイトによる情報提供における工夫点に関する自由記述回答を分類した結果について、上位10位までを示したものである。  
 ・最も多かったのは、「見やすさ・わかりやすさへの配慮」、次いで「新しい情報の提供」と「アクセシビリティに関する配慮」、次いで「個人情報の保護」となっていた。  
 ・見やすくわかりやすいものとなるよう、また、新しい情報を提供するように努力していることがうかがわれる。  
 ・また、Webサイトのアクセシビリティについて配慮している学校もみられるようになってきていることがわかる。

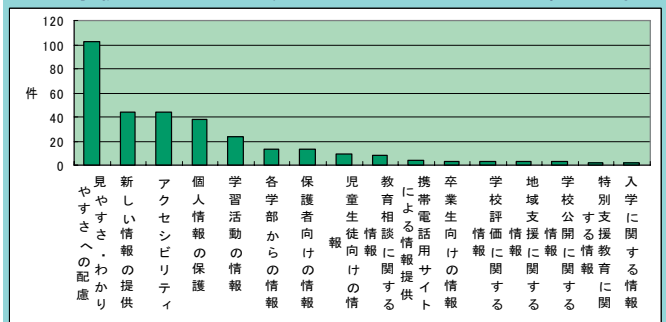


図3 Webサイトによる情報提供における工夫点

### Webサイトによる情報提供における課題

・図4は、Webサイトによる情報提供における課題に関する自由記述回答を分類した結果について、上位10位までを示したものである。  
 ・最も多かったのは、「情報の更新」、次いで「個人情報の保護」、次いで「対応できる人員の不足」となっていた。  
 ・情報の更新に関することが課題と考えている学校が多いことがわかる。  
 ・また、個人情報の保護については、情報発信における重要な課題であると認識しているところが多いと言える。

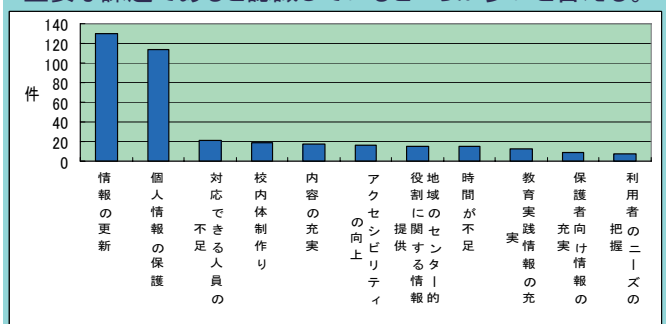


図4 Webサイトによる情報提供における課題

### まとめ

・学校のWebサイトからの今後の情報発信として、教育活動に関する内容の充実、地域のセンター的機能を果たすための情報提供の充実が重要と考えられる。  
 ・今後さらに、学校のWebサイトのアクセシビリティ向上のための取組が行われる必要がある。  
 ・情報の更新に関することを課題としてあげているところが多く、学校からの情報発信をより円滑に行うための校内体制の整備を行うことが重要である。

## Webを利用した盲・聾・養護学校からの情報提供における現状と課題(2) - Webサイトのアクセシビリティの現状に関する調査報告 -

○小野龍智・渡辺哲也 (独立行政法人国立特殊教育総合研究所)

### 目 的

Webサイトの情報を高齢者・障害者にも読みやすいものとするための指針が、平成16年6月に日本工業標準(JIS)として制定され、Webサイトのアクセシビリティの問題が広く注目を集めている。特に、公共機関のサイトのアクセシビリティが関心を集めているが、我々は、公共機関であると同時に障害児・者の窓口となるべき存在である盲・聾・養護学校のWebサイトのアクセシビリティを点検することにした。

### 方 法

**調査対象** 全国の盲・聾・養護学校608校／997校  
**調査期間** 平成17年1月4日から27日の約3週間  
**点検方法** アクセシビリティの点検ツールとして、富士通株式会社のWebInspectorを使用  
 各サイトのトップページのみを点検

### 結 果

#### 優先度により分類した問題数

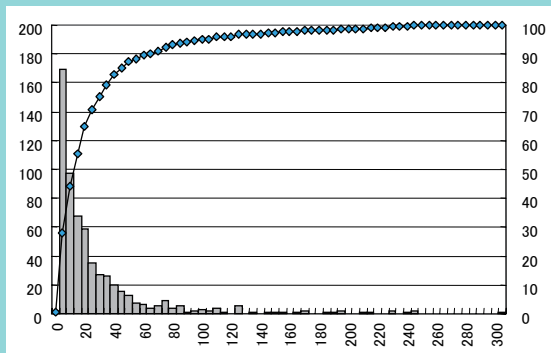


図1 全問題数の度数分布(角柱, 左の目盛り, 単位: 学校数)と累積度数(折れ線, 右の目盛り, 単位: %)

- ・指摘された問題は、優先度1と2のものだけであった。
- ・問題数5以下の区間に最も多くの学校が集まっている(171校, 28.1%)。
- ・調査対象全体の7割以上の学校で、アクセシビリティの問題数が25以下であった。
- ・養護学校2校が今回の調査では問題数が0であった。

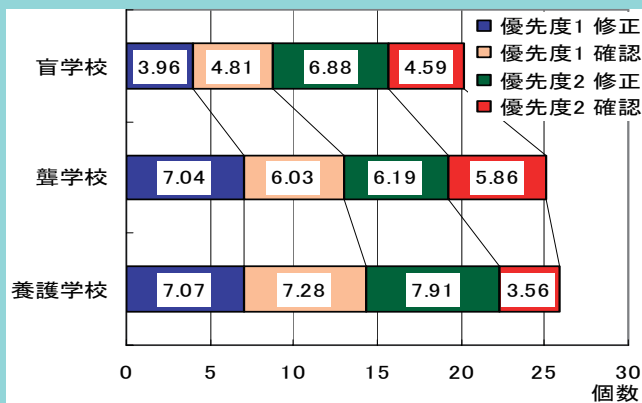


図2 問題数の平均値の学校種別間での比較

- ・盲学校の問題数が聾・養護学校に比較して低くなっている。
- ・特に、問題としての重大性が最も高い「優先度1 修正」が聾・養護学校に比べ低い。
- ・聾・養護学校間の差については全体、優先度区分いずれの観点からも目立った違いは見られなかった。

#### JIS点検項目により分類した問題数

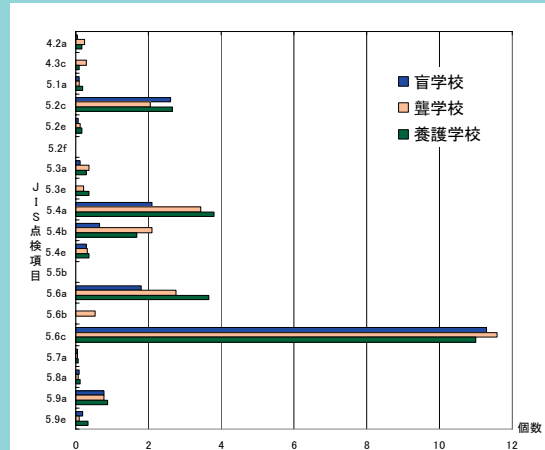


図3 JIS点検項目ごとに見た問題数平均値の学校間での比較

- ・JISの点検項目ごとに問題を計数すると、5.2c, 5.4a, 5.4b, 5.6a, 5.6c, 5.9a(これらはいずれも、JIS X 8341-3における項目番号)の各点検項目では、平均問題数が他の項目に比べて多かった。

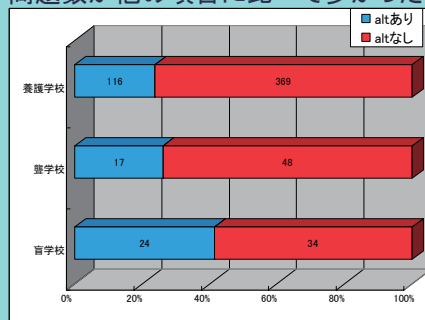


図4 alt属性の有無

※ グラフ内の数値は校数

#### 今回の点検方法に関する問題

- ・フレームが使われているサイトでは、フレームが指し示すHTMLファイルを点検していない。
- ・トップページ以外のページを点検していない。
- ・音声ブラウザやスクリーンリーダを使った点検をしていない。

#### まとめ

アクセシビリティの問題は視覚障害者に最も強く影響するため、盲学校のWebサイトはアクセシビリティが高いと仮説を立てて調査を行ったが、実際に盲学校の方が聾・養護学校に比べアクセシビリティ上の問題が少ない傾向にあることがわかった。

今回の調査結果を公表することで、盲・聾・養護学校におけるWebアクセシビリティの認知に役立てたい。